

第37回若手研究者・院生情報交換会報告

2016年8月28日(日)、キャンパスプラザ京都にて「若手研究者の研究・教育スタイル」をテーマとして、第37回若手研究者・院生情報交換会が開催されました。当日は、12名の大学院生、現場職員等が集いました。とりわけ後期課程に在籍する学生の参加者が多く、このテーマについての関心の高さがうかがえました。

石田慎二先生(帝塚山大学)がコーディネーターとして企画の趣旨等を説明した上で、松本しのぶ先生(京都光華女子大学)から「父親の家庭・地域参画の促進を意図した家族参加型子育て支援プログラムの開発」、郭芳先生(同志社大学)から「中国の介護市場に進出した日本式介護サービスへの評価に関する研究」の報告がありました。お二人の研究は、いずれも科学研究費助成事業(若手研究(B))に採択されています。

まず、松本先生の研究では、父親が継続的に子育てを支え合う「地域とのつながり」を形成できるプログラム内容の検討を研究目的とされていました。諸事情で調査時期に遅れが生じたそうですが、当初より研究計画に余裕を持たせていたため、大きな影響はなかったとのことでした。想定外の事も視野に入れた計画の重要性を考えさせられました。

次に、郭先生は、現在の中国が抱える介護課題に対して「日本式介護サービス」導入を促進することの意義を実証的に示すことを研究目的とされていました。「研究計画書は他分野の方にも理解してもらえるように心がけた」と説明され、計画書を10名程の人に確認してもらいにまわったとのことでした。各人よりアドバイスを頂き、その都度計画をブラッシュアップして、ここまで辿り着かれたのではないのでしょうか。

後半は、研究者でもあり教員でもある先生方の日常生活の報告でした。専門外の講義を担当することも多々あり、その都度、猛勉強をするということでした。しかし、その知識さえも自分のものにして研究に反映させていくお話しはまさに圧巻でした。

粉骨砕身する先生方のご報告を受け、私自身も一層努力する気持ちになった1日でした。

関西大学大学院人間健康研究科
博士課程後期課程
高木 さひろ

